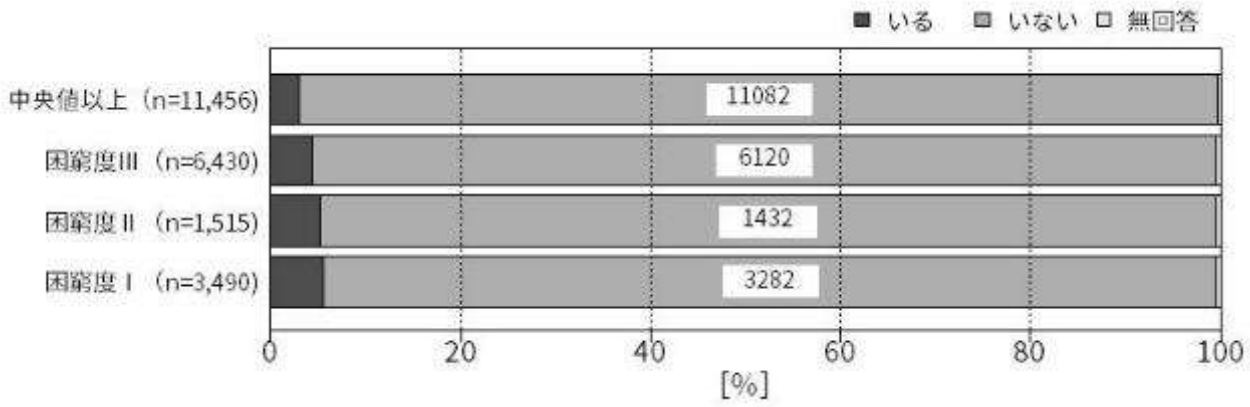
困窮度別に見た、介護または介助の必要な方（保護者票　問 3(1)②）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

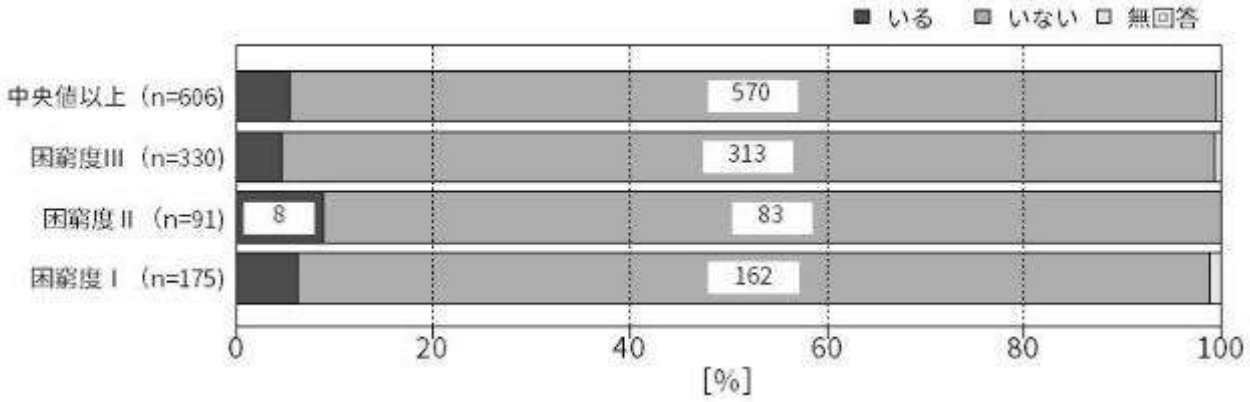
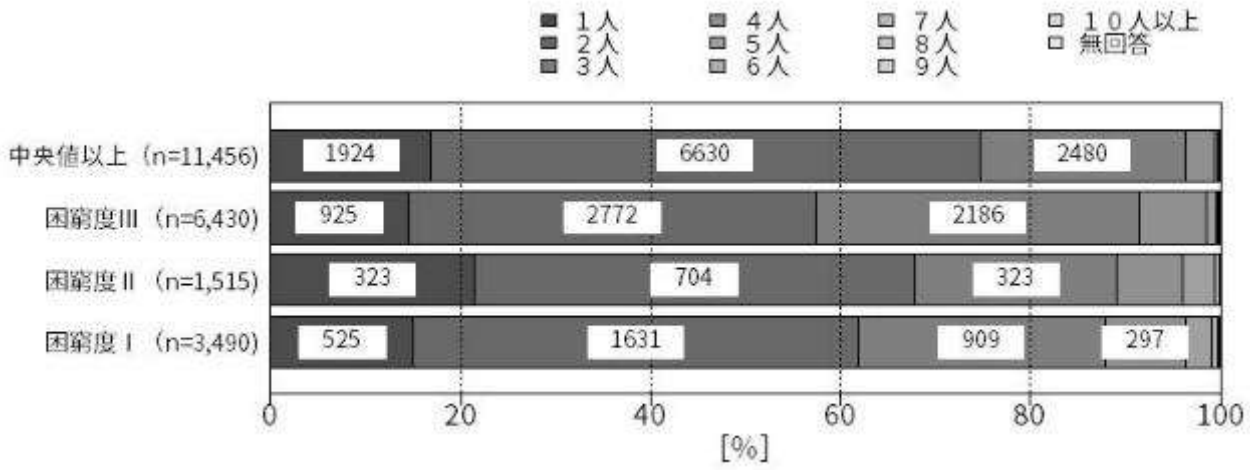


図 117. 困窮度別に見た、介護または介助の必要な方

困窮度別に介護または介助の必要な方を見ると、中央値以上群では「いる」と回答した割合が 5.4%であったのに対して、困窮度 I 群では 6.3%であった。

困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票　問 3(1)③）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

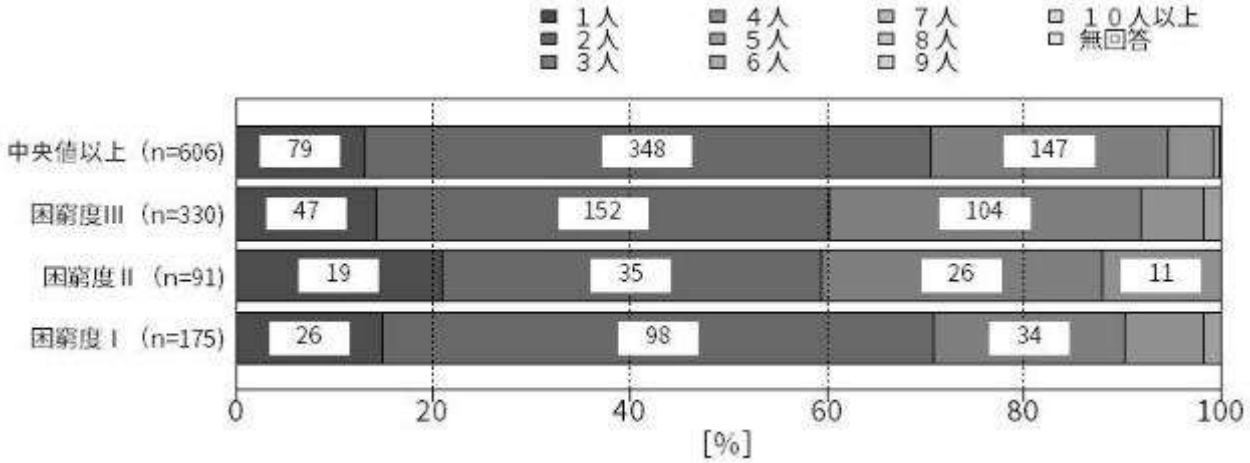
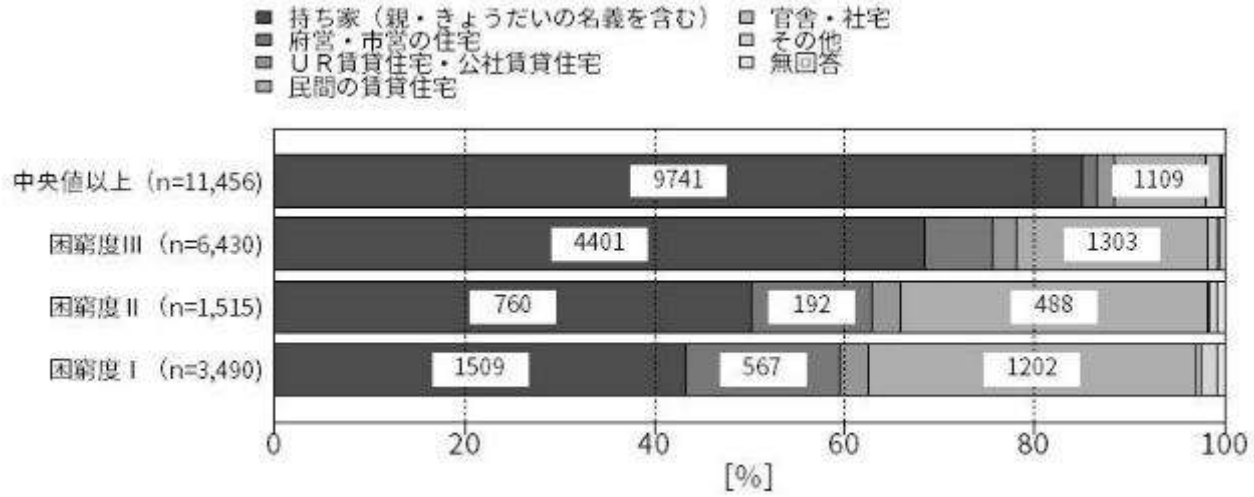


図 118.　困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において 3 人以上が 29.5%であったのに対して、困窮度 I 群では、29.1%であった。

困窮度別に見た、住居（保護者票　問 4）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

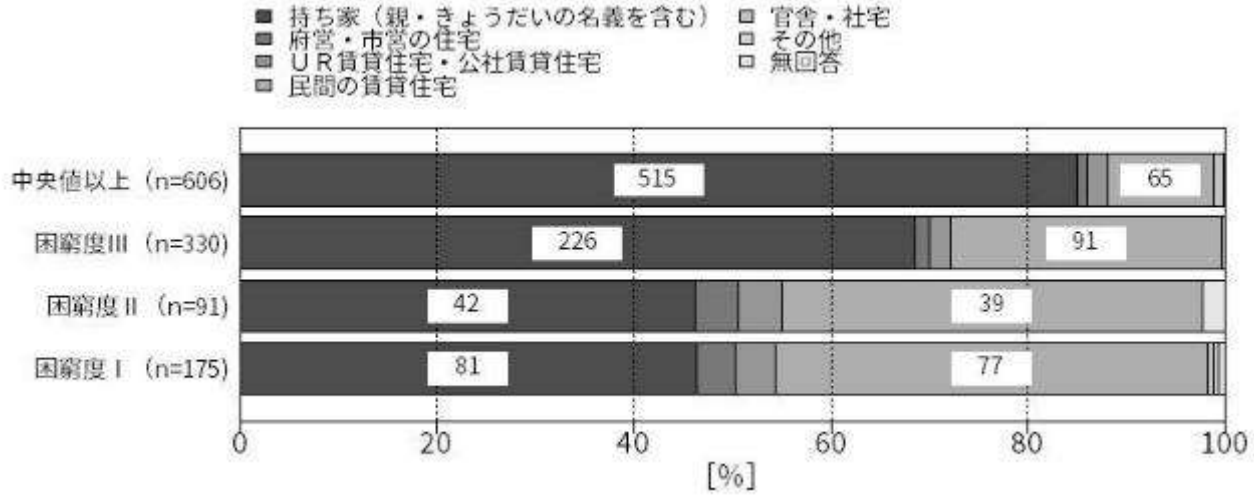
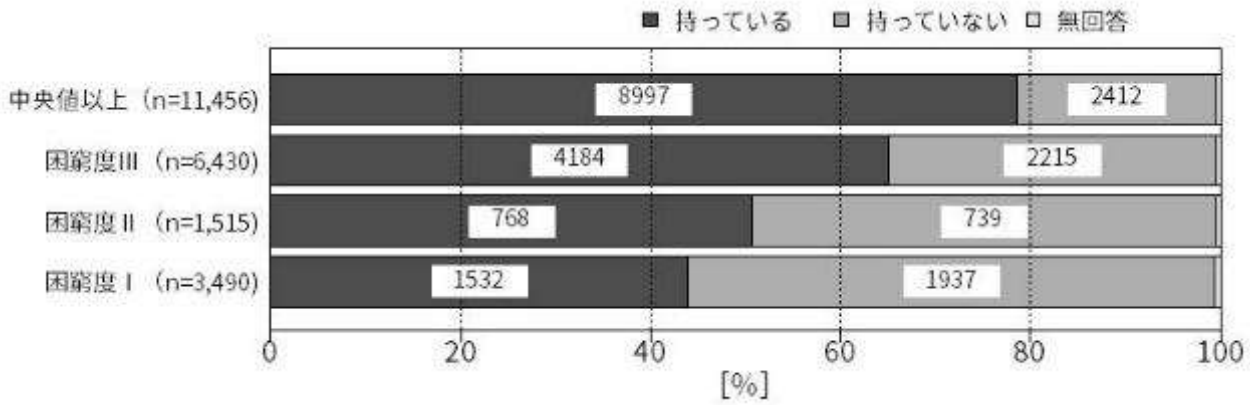


図 119. 困窮度別に見た、住居

困窮度別に住居を見ると、中央値以上群では、「持ち家」と回答した割合は 85.0%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では、46.3%である。

困窮度別に見た、自家用車の所有（保護者票　問 5）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

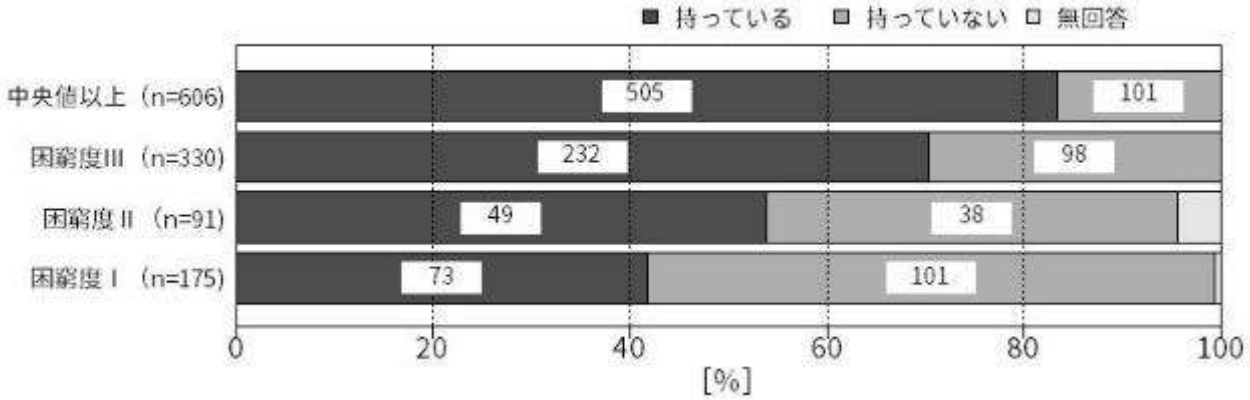
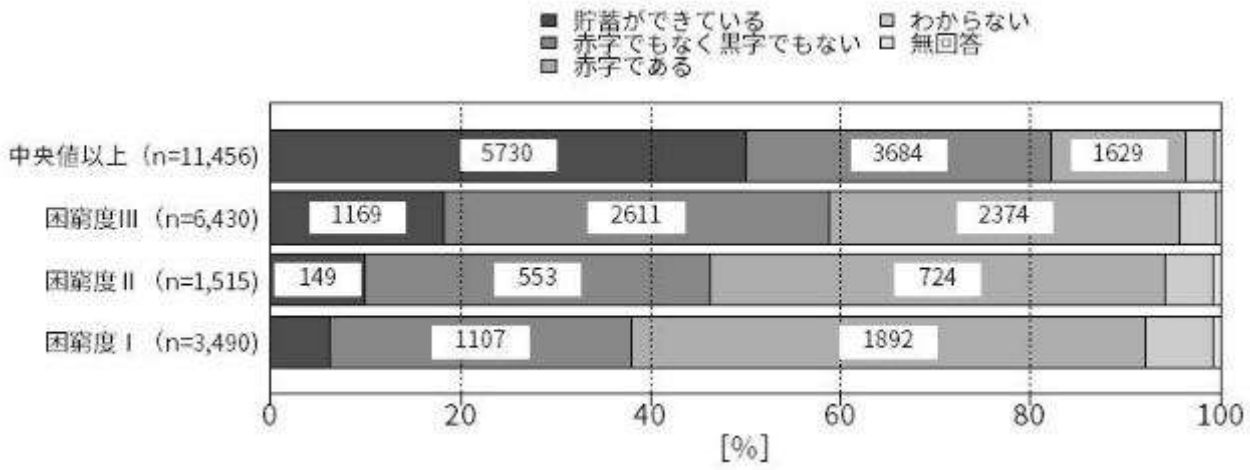


図 120. 困窮度別に見た、自家用車の所有

困窮度別に自家用車の所有を見ると、中央値以上群では、車を所有している世帯が 83.3%であったのに対して、困窮度 I 群では 41.7%である。

困窮度別に見た、家計状況（保護者票　問 6(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

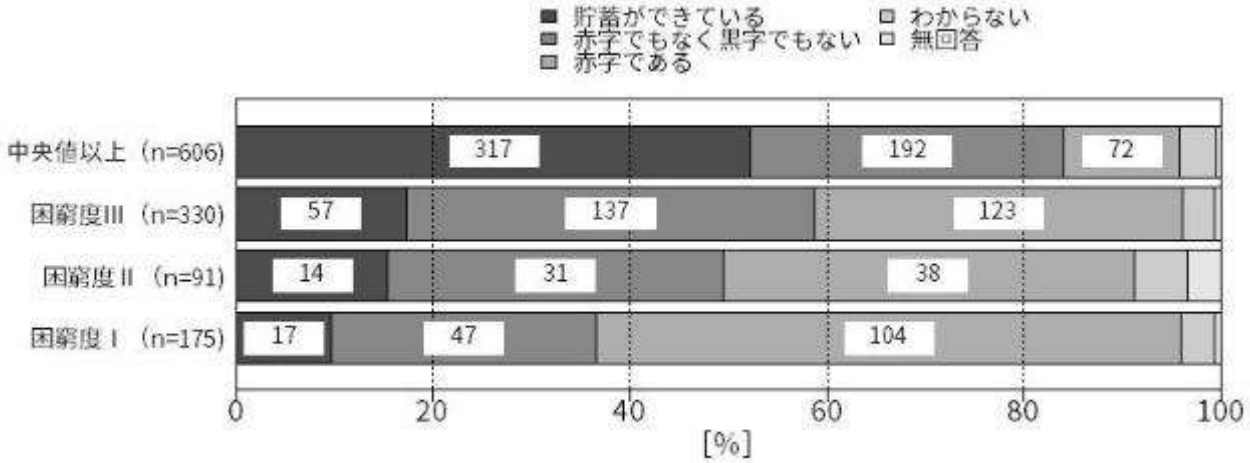
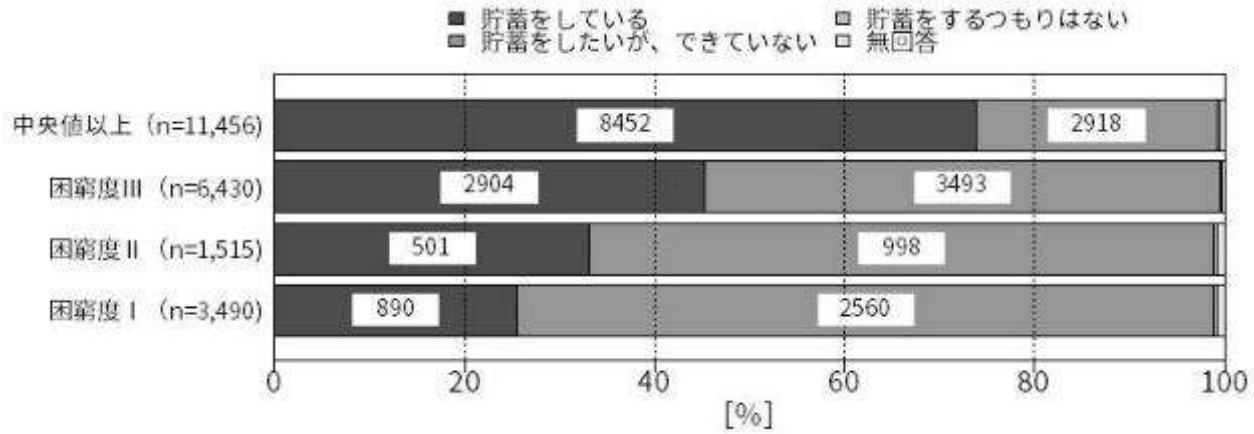


図 121．困窮度別に見た、家計状況

困窮度別に家計の状況を見ると、中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、11.9%であったのに対して、困窮度 I 群では、59.4%であった。

困窮度別に見た、子どものための貯蓄（保護者票　問 6(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

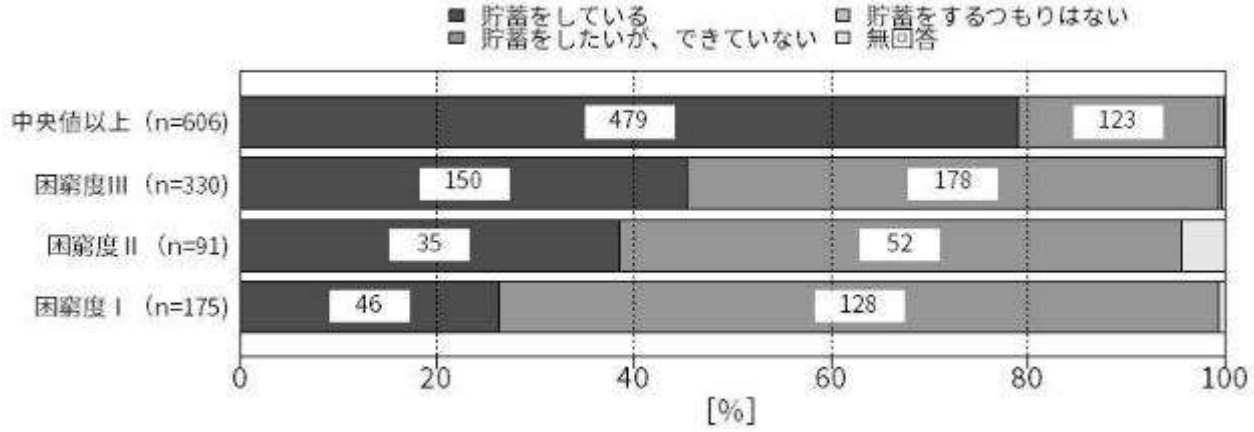
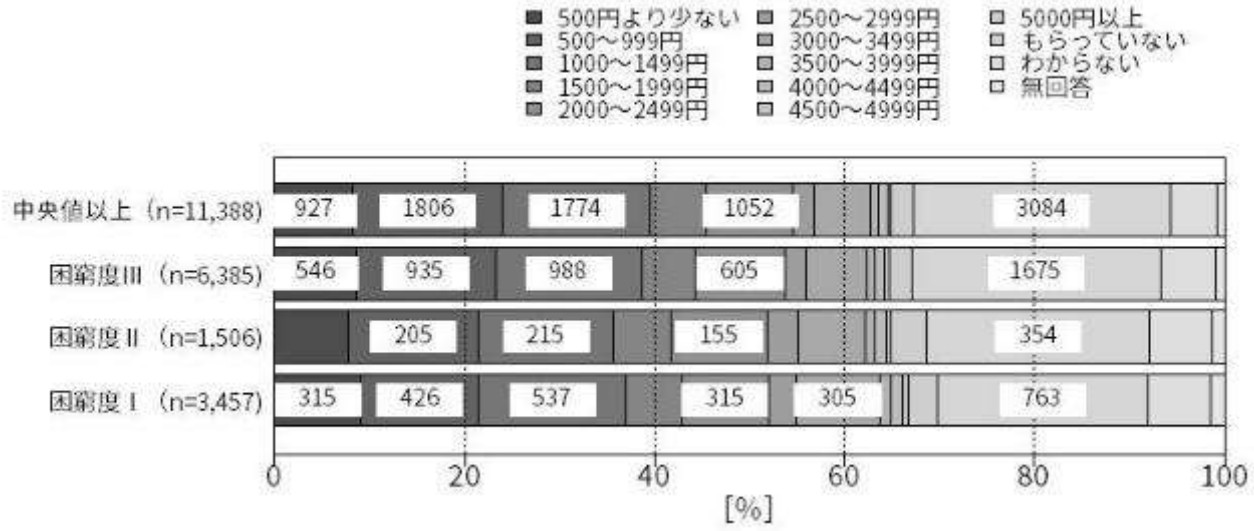


図 122. 困窮度別に見た、子どものための貯蓄

困窮度別に子どものための貯蓄を見ると、中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が 79.0%であったが、困窮度 I 群では 26.3%であり、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答する割合が 73.1％であった。

困窮度別に見た、おこづかいの金額分布（子ども票　問 20(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

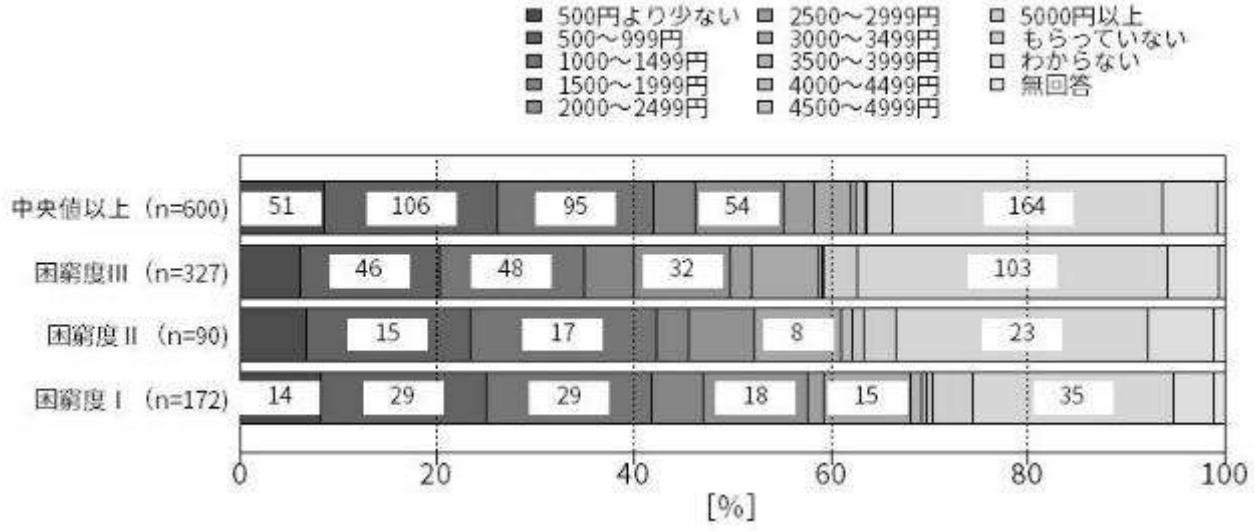
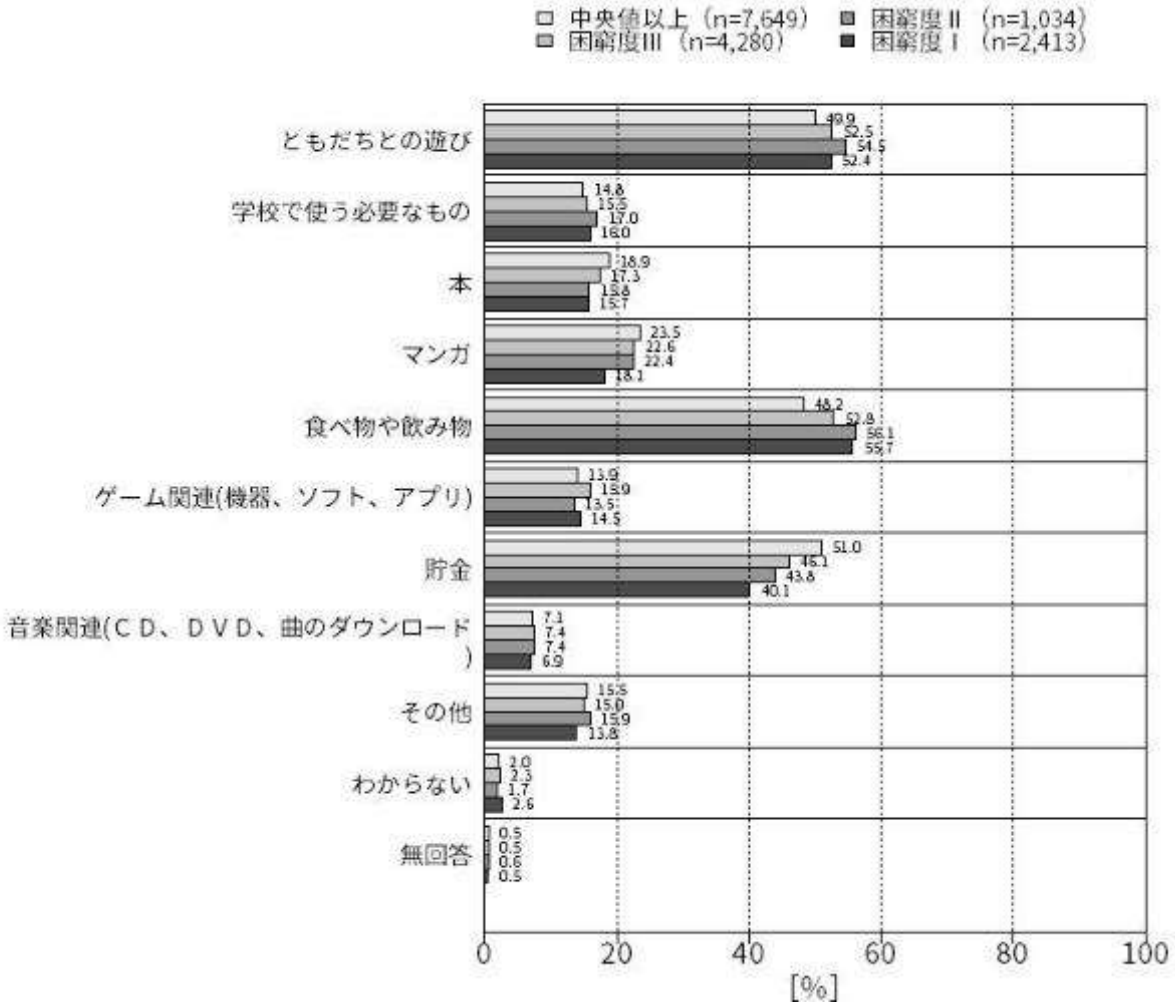


図 123. 困窮度別に見た、おこづかいの金額分布

困窮度別におこづかいの金額分布を見ると、困窮度による大きな違いは見られない。おこづかいをもらってはいるが、その使途や必要な物は親に購入してもらっているか、など詳細をみる必要がある。

困窮度別に見た、おこづかいの使い方（子ども票　問 20(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

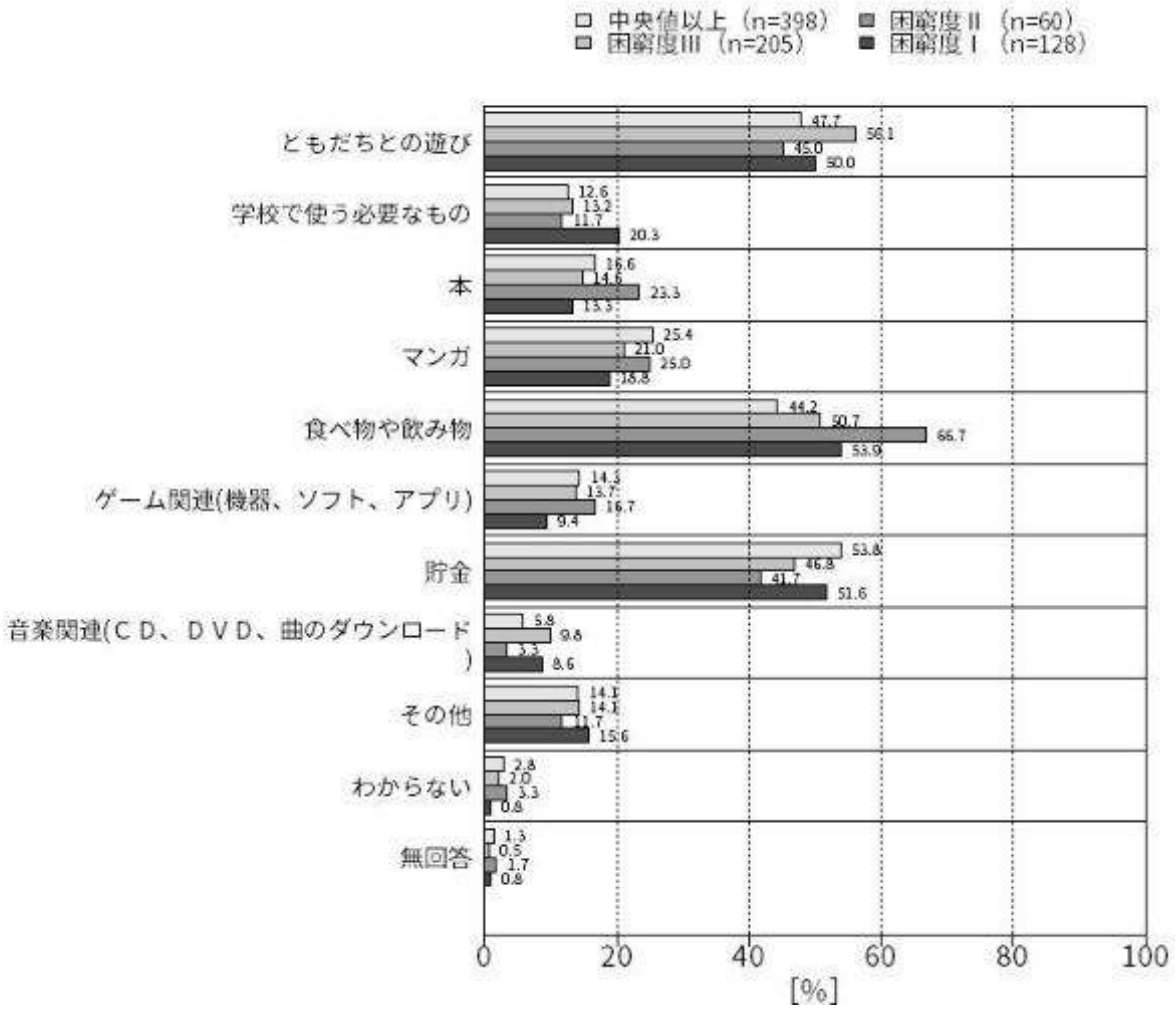


図 124. 困窮度別に見た、おこづかいの使い方

困窮度別におこづかいの使い方を見ると、「貯金」が中央値以上群 53.8%であったのに対して、困窮度Ⅱ群では 41.7%、困窮度Ⅰ群では 51.6%であった。

＜経済状況に関する考察＞

今回の調査では、経済的状況と生活上の困難の経験との間に関係があることが示されている。本調査で用いた経済的理由による生活上の困難に関する質問項目は、現代日本において「通常であれば可能な生活」を想定して設定している。中央値以上の群で「どれにも当てはまらない」と回答した世帯は35.0%であったのに対し、困窮度が深刻になるにつれて該当世帯の割合は下がり、困窮度Ⅰの群では4.6%にとどまった。一方、「電気・ガス・水道などが止められた」、「電話(固定・携帯)などの通信料の支払いが滞ったことがある」、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」など、住居やライフラインに関する生活面の困難を感じた世帯は、中央値以上の群では2%以下であるのに対し、困窮度Ⅰの群では、それぞれ、8.6%、12.6%、8.0%という回答になっている。この質問項目は概ね半年という期間を限定した質問であるにも関わらず、回答に大きな差が生じていることは生活面での格差を表しているといえるだろう。さらに「国民年金の支払いが滞ったことがある」と回答した困窮度Ⅰの群の世帯は23.4%にのぼった。現在だけでなく、将来においても保護者が経済的に困難な状態に陥る可能性を示唆しているといえるだろう。生活上の困難は、心理面にも影響していることも結果からは明らかになっている。「生活の見通しが立たなくて不安になったことがある」と回答した世帯は、中央値以上の群では7.6%であったのに対し、困窮度Ⅰの群では46.9%であった。

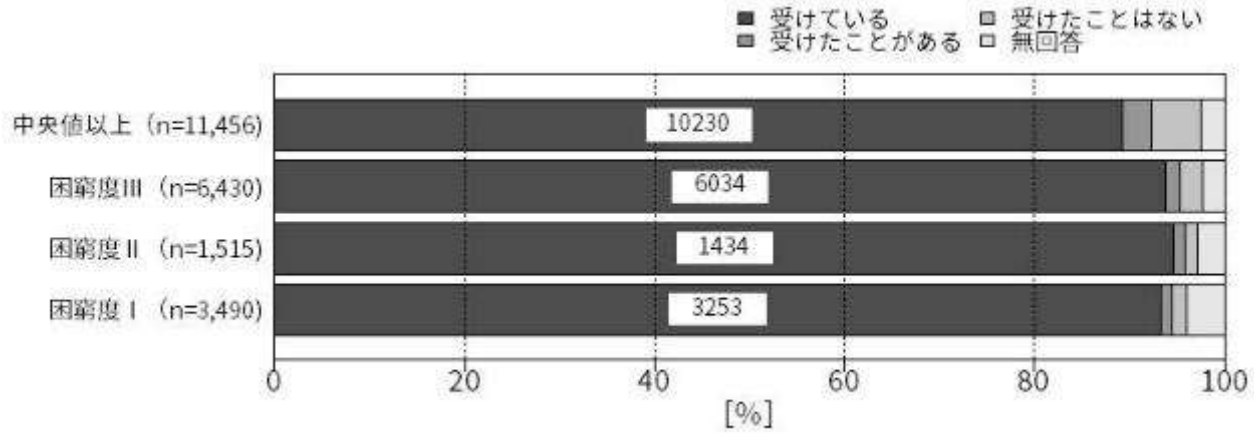
世帯の経済状況は子どもの生活にも影響を与えていることも確認することができた。「子どもを医療機関に受診させることができなかった」と回答した世帯は、困窮度Ⅰの群では3.4%であった。中央値以上の群では、該当すると回答した世帯は0.3%にとどまった。「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」と回答した世帯は、困窮度Ⅰの群では26.3%で、中央値以上の群では3.8%であった。どちらの項目も、中央値以上の群と困窮度Ⅰの群で大きな差があり、世帯の経済格差が子どもを取り巻く状況の格差につながっていることがわかる。

学習の機会においても同様のことがいえる。「子どもの進路を変更した」世帯は、中央値以上の群では0.5%にとどまったものの、困窮度Ⅰの群では2.9%にのぼった。「子どもを学習塾に通わすことができなかった」世帯は、中央値以上の群では4.0%、困窮度Ⅰの群では20.6%であった。学力ではなく、家庭の経済状況によって学習の場や機会が制限されてしまっていることが示唆されている。さらに、「子どもの将来のために貯蓄をしている」割合は、中央値以上の群では79.0%であったのに対し、困窮度Ⅰの群に属する73.1%の世帯が、貯蓄をしたいができていない、と回答しており、この格差は今後も固定化・拡大する可能性がある。学習機会以外にも、「子どものための本や絵本の購入」、「習い事」や「家族旅行」など余暇活動を経済的な理由によって断念する世帯の割合は、中央値以上の群と困窮度Ⅰの群とでは差が生じている。中央値以上の群では、それぞれ1.7%、2.8%、7.4%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では12.0%、23.4%、44.0%と少なくとも5倍以上の差が見られた。また、「どれにもあてはまらなかった」と回答している世帯が、中央値以上の群では、70.5%に達している。

（2）家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、児童手当（保護者票　問 30(3)①）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

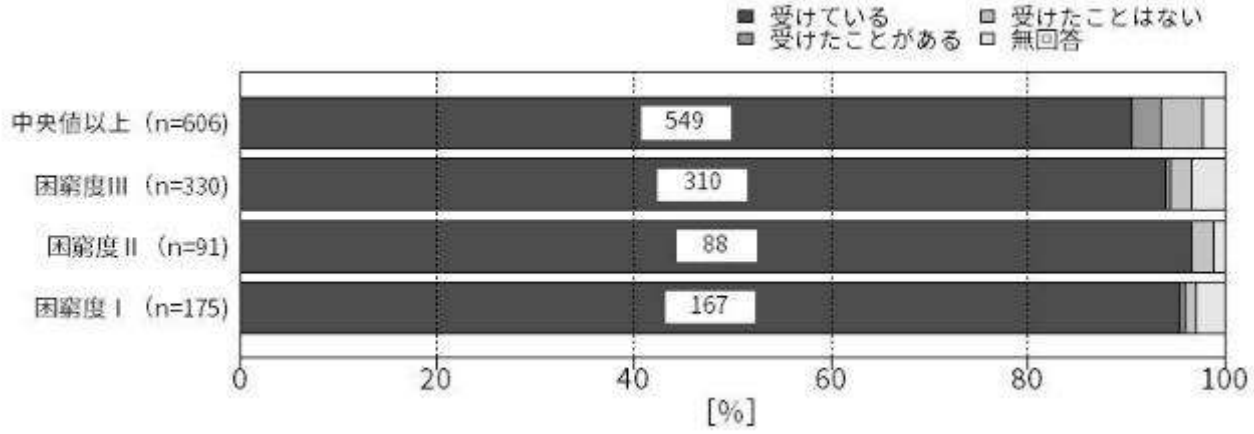
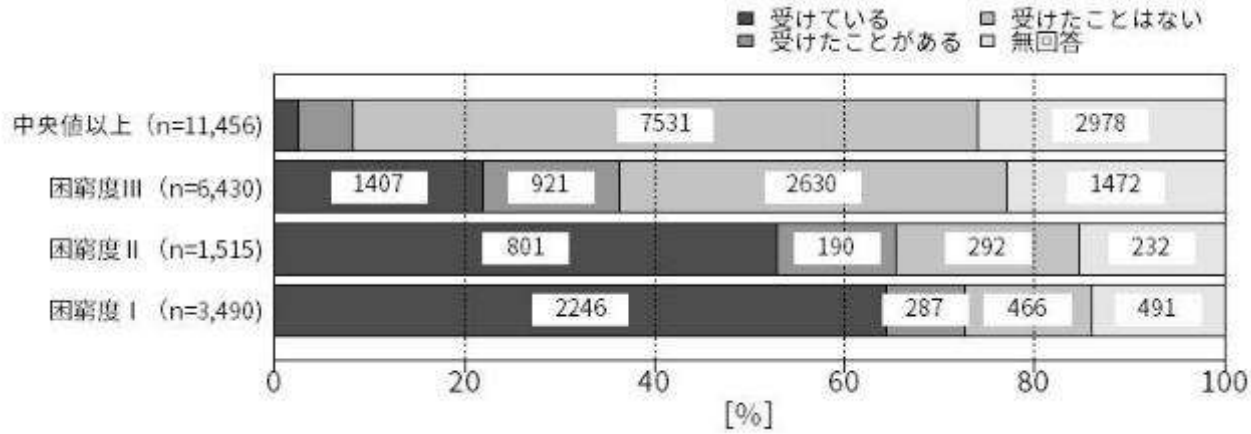


図 125. 困窮度別に見た、児童手当

児童手当は多くの世帯が受給していた。困窮度別に児童手当の受給率を見ると、困窮度Ⅰ～Ⅲ群において、とりわけ多くの世帯（93.9%～96.7%）が「受けている」に回答した。

困窮度別に見た、就学援助費（保護者票　問 30(3)②）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

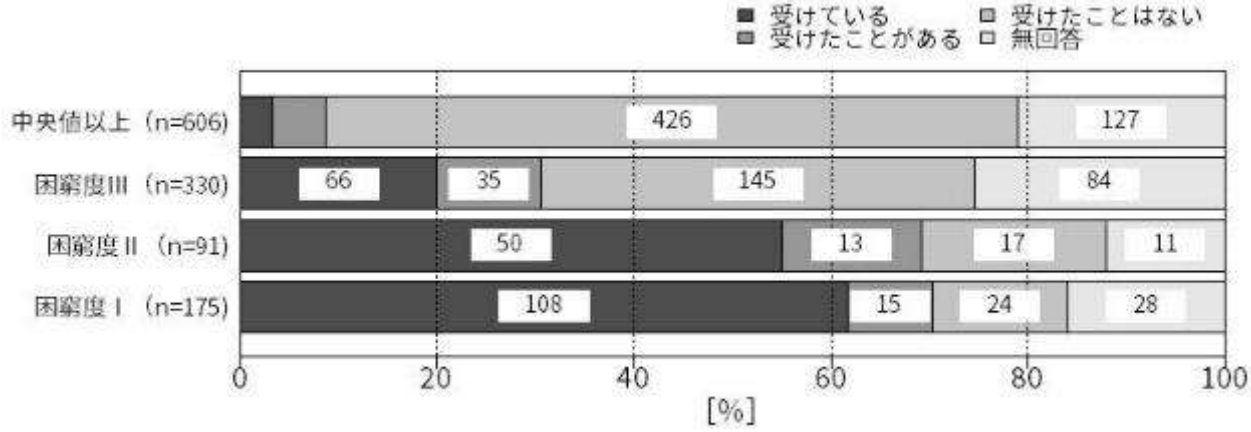
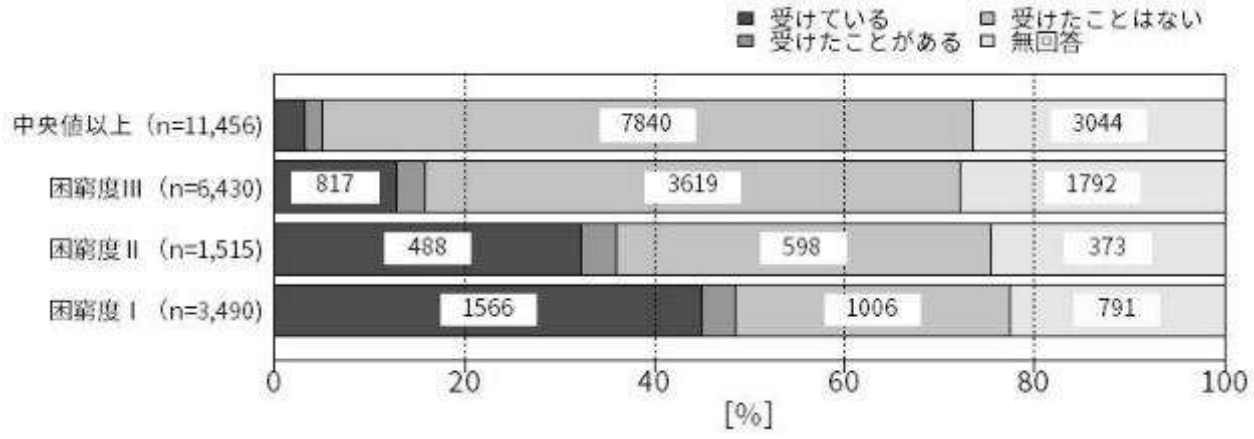


図 126.　困窮度別に見た、就学援助費

困窮度別に就学援助費の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている傾向にあった。

困窮度別に見た、児童扶養手当（保護者票　問 30(3)③）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

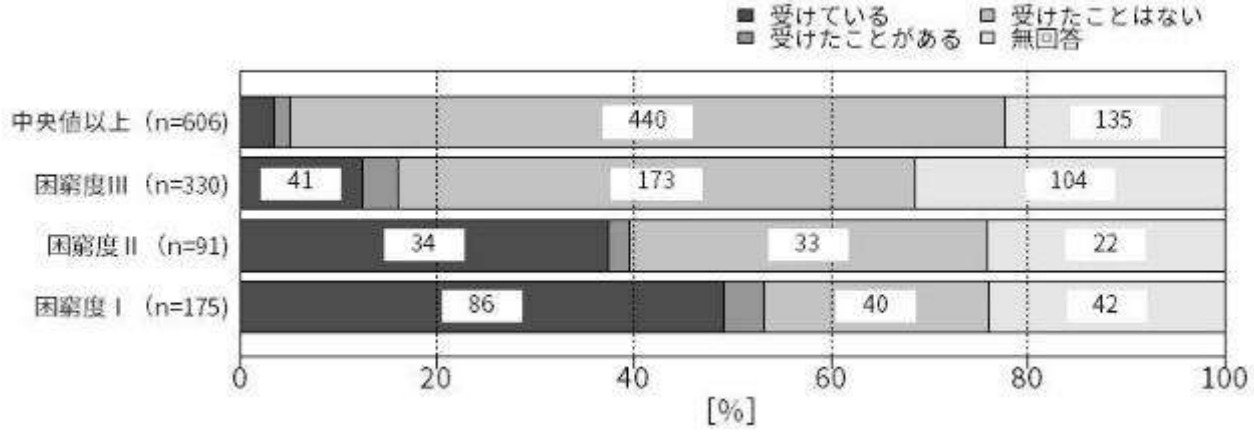


図 127. 困窮度別に見た、児童扶養手当

困窮度別に児童扶養手当の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

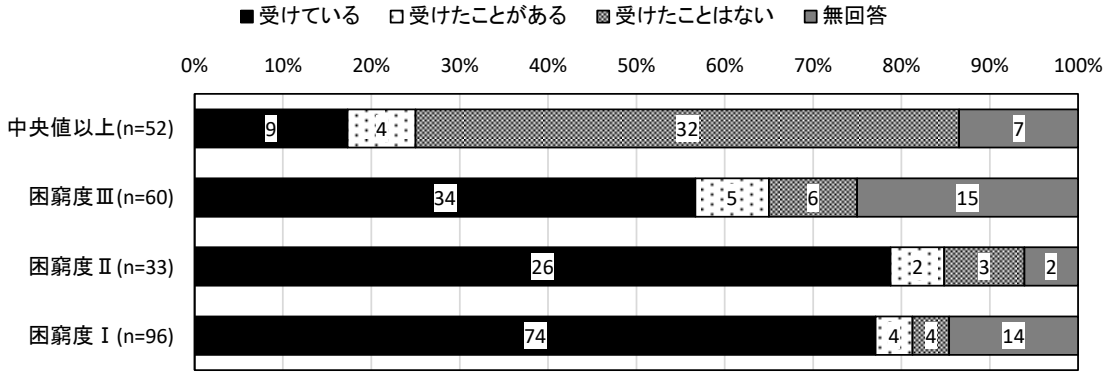
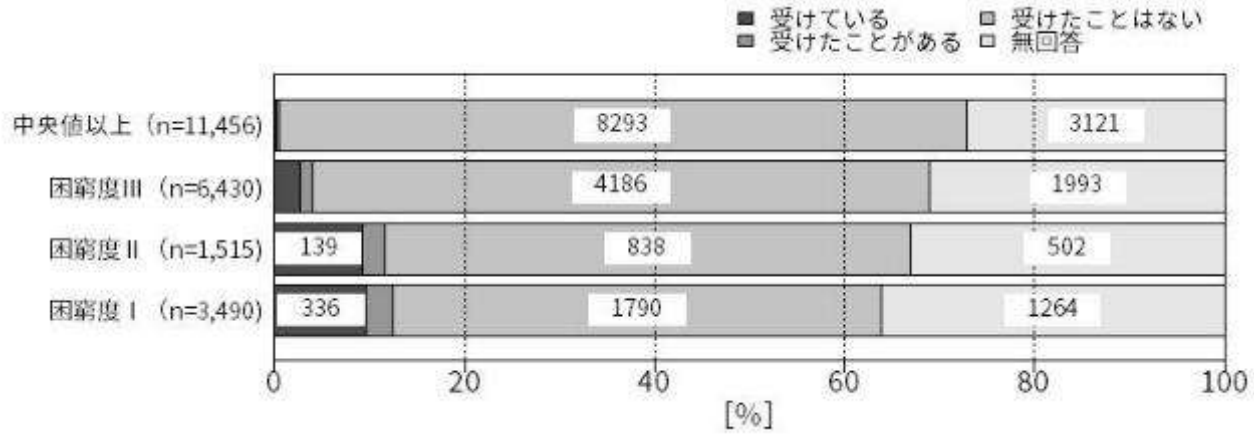


図 127 の補足図. 困窮度別に見た、児童扶養手当（ひとり親）

困窮度別に見た、生活保護（保護者票　問 30(3)⑤）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

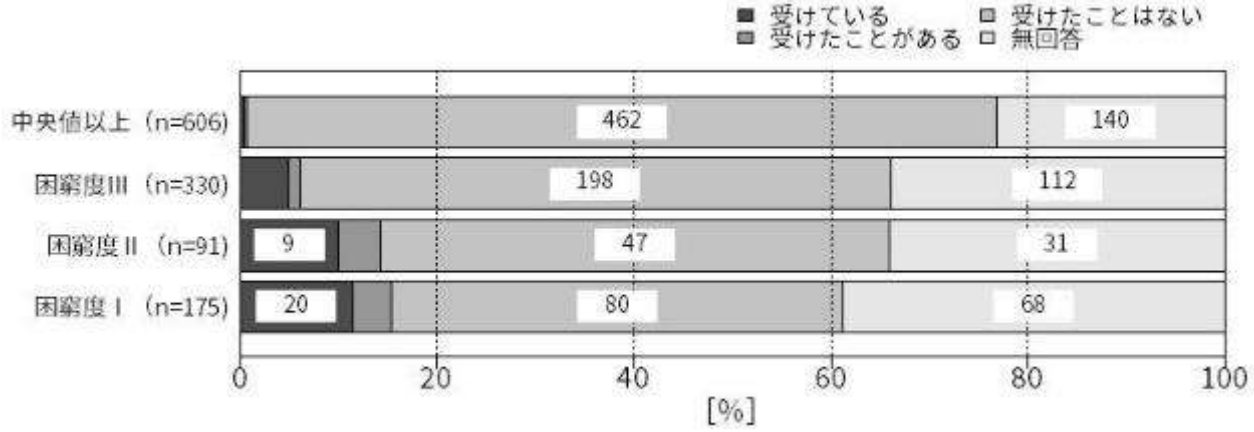
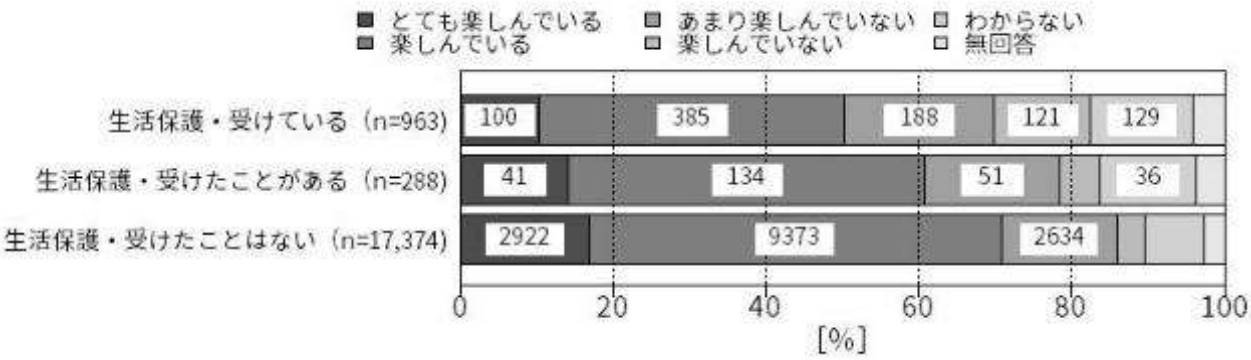


図 128.　困窮度別に見た、生活保護

困窮度別に生活保護の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は 11.4% であった。困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている傾向にあった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 25(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

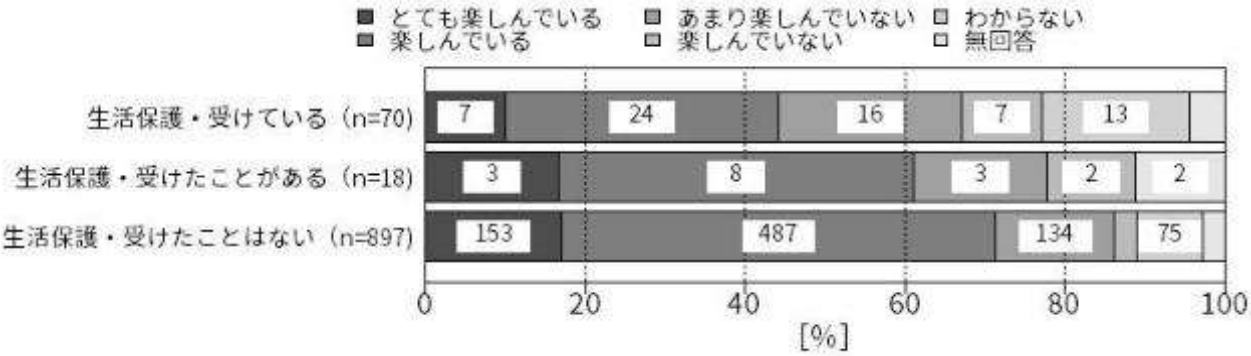


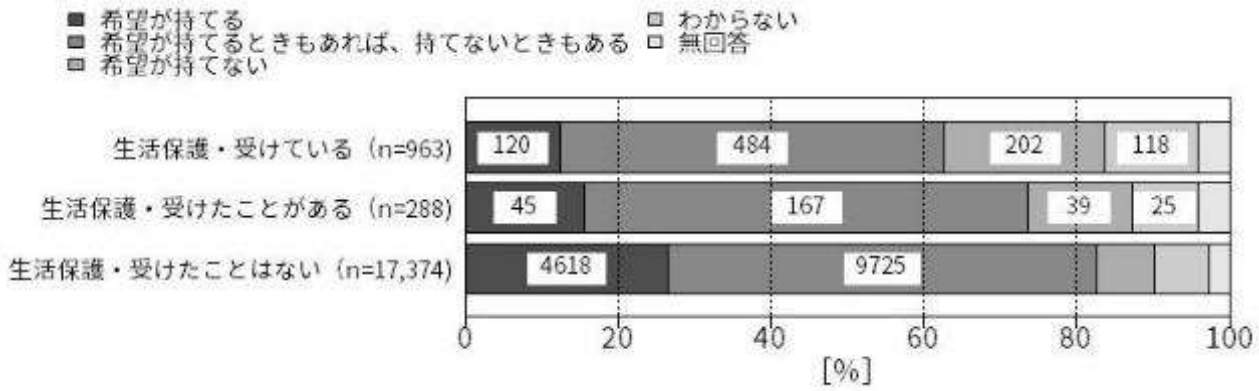
図 129. 生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、生活を「楽しんでいない」という回答が 10%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 2.7%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 25(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

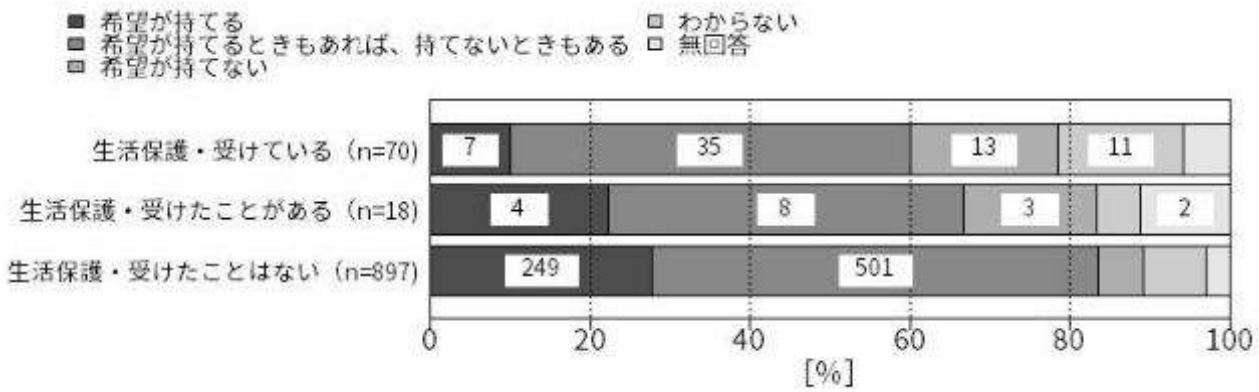


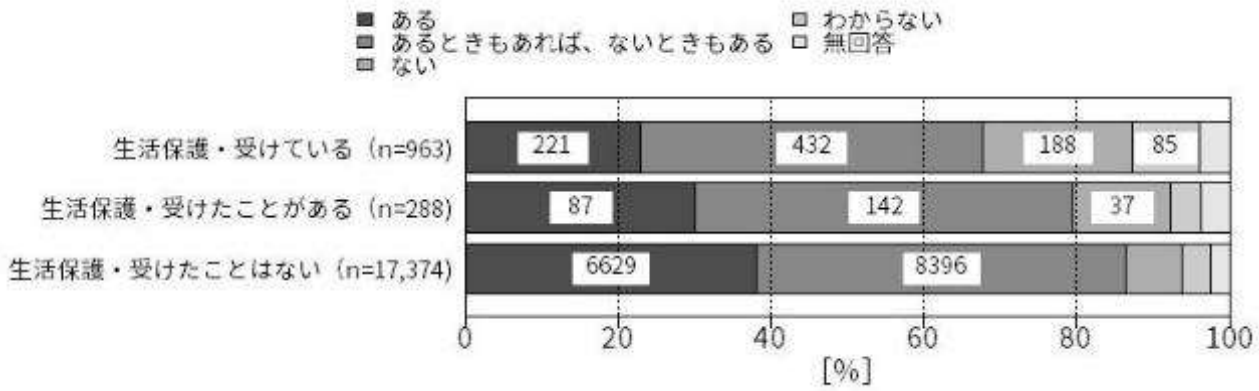
図 130. 生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、将来に対して「希望が持てない」という回答が 18.6%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 5.6%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 25(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

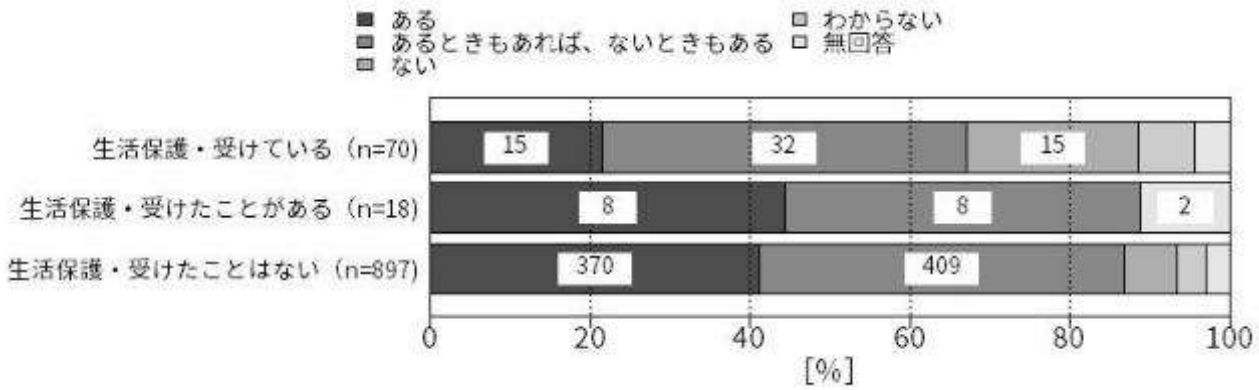


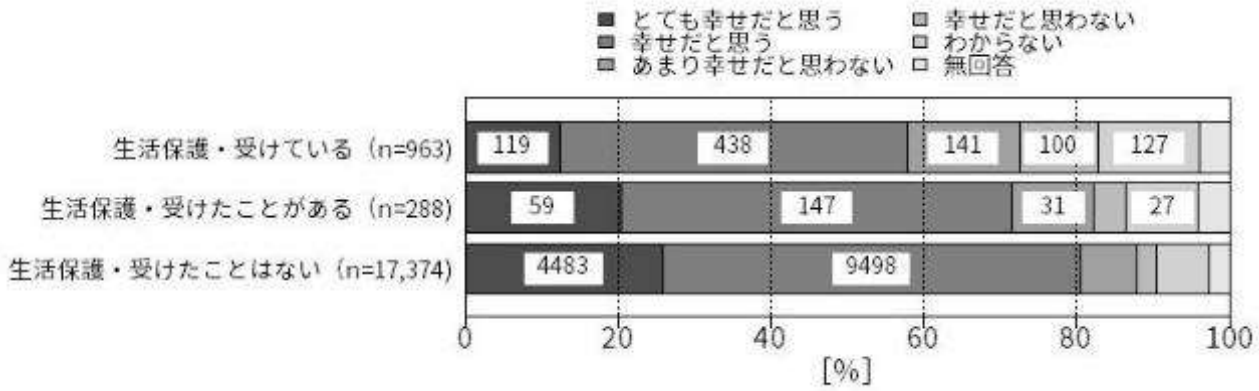
図 131. 生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、ストレスを発散できるものが「ない」という回答が 21.4%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 6.6%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 25(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

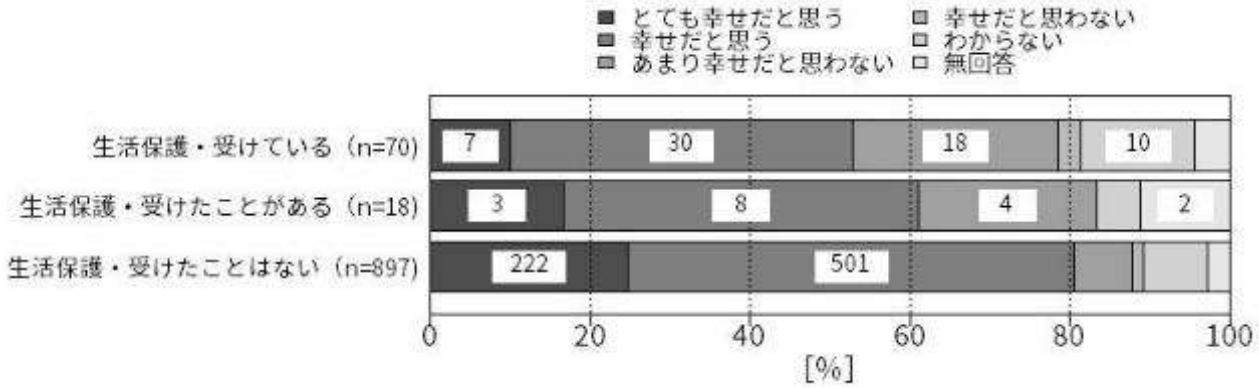


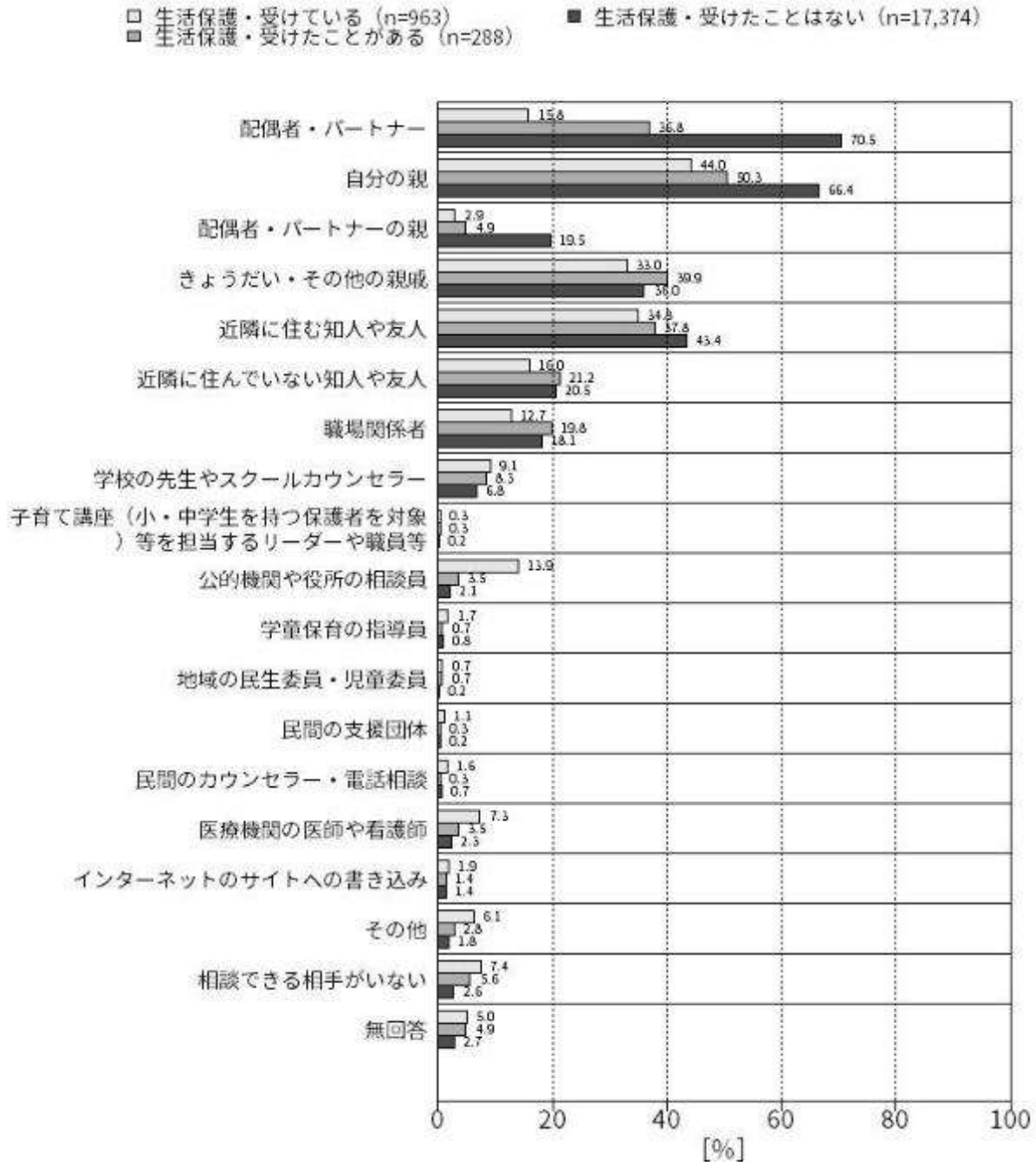
図 132. 生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、「とても幸せだと思う」という回答が 10.0%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 24.7%であった。

生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 24）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

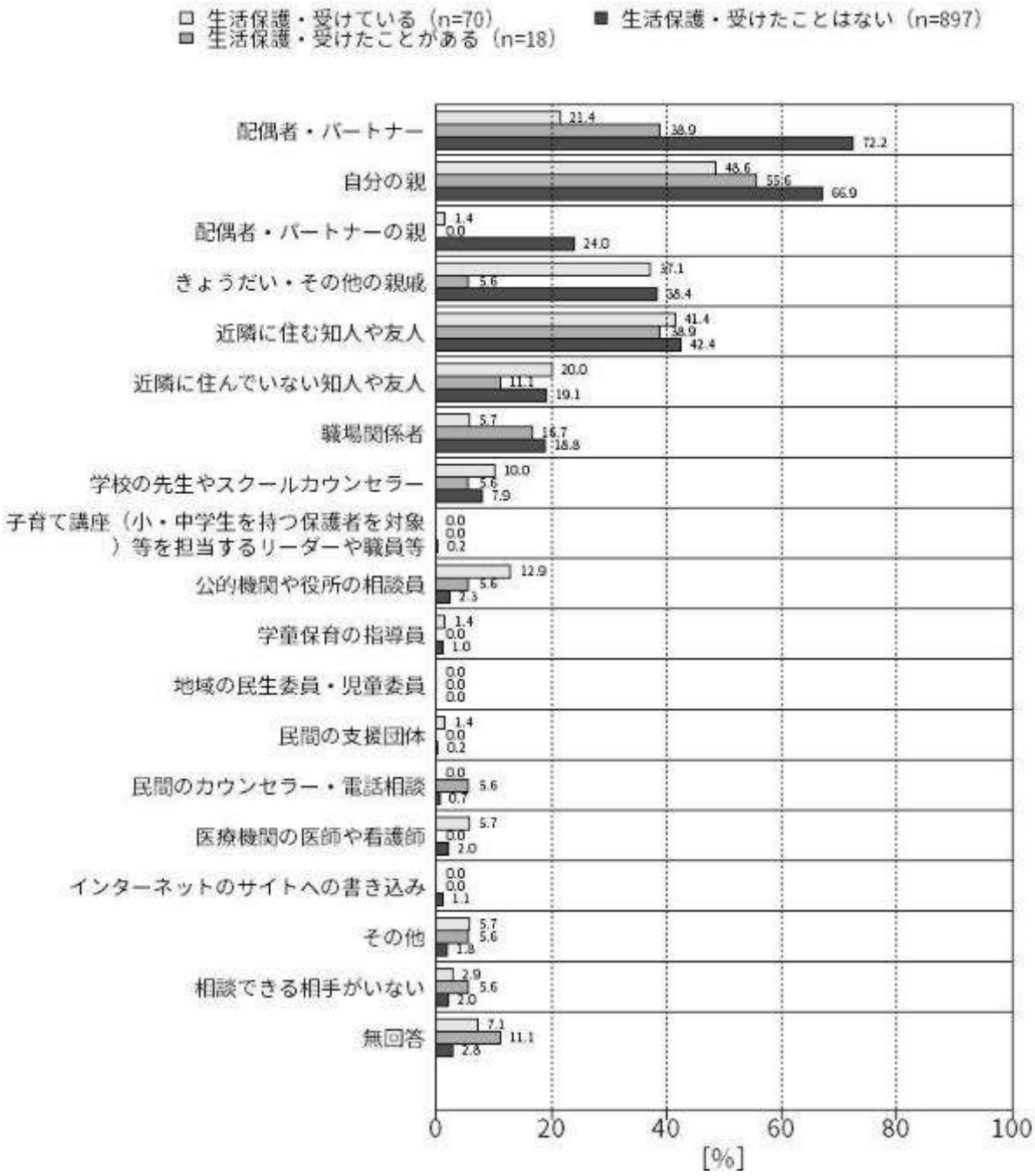


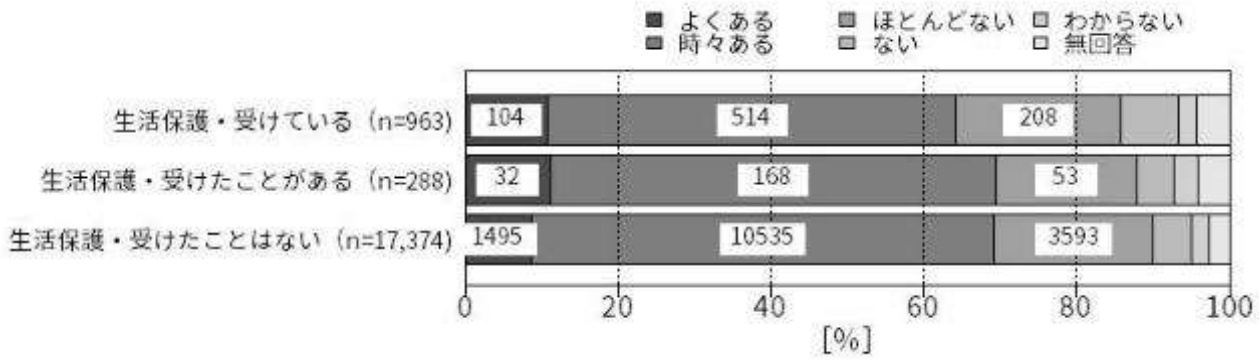
図 133. 生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、「相談できる相手がいない」という回答が 2.9%、生活保護を受けたことがない世帯では 2.0%であった。生活保護を受けている世帯では、「公的機関や役所の相談員」「医療機関の医師や看護師」という回答も多かった。

生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

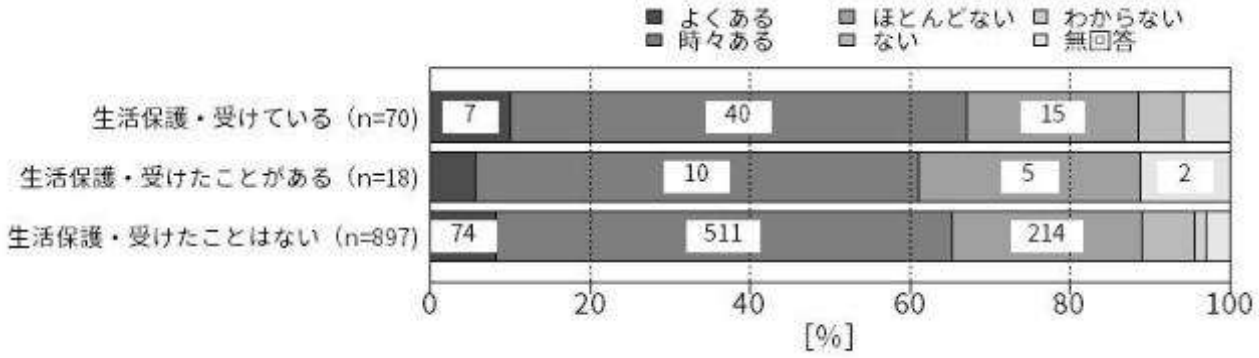


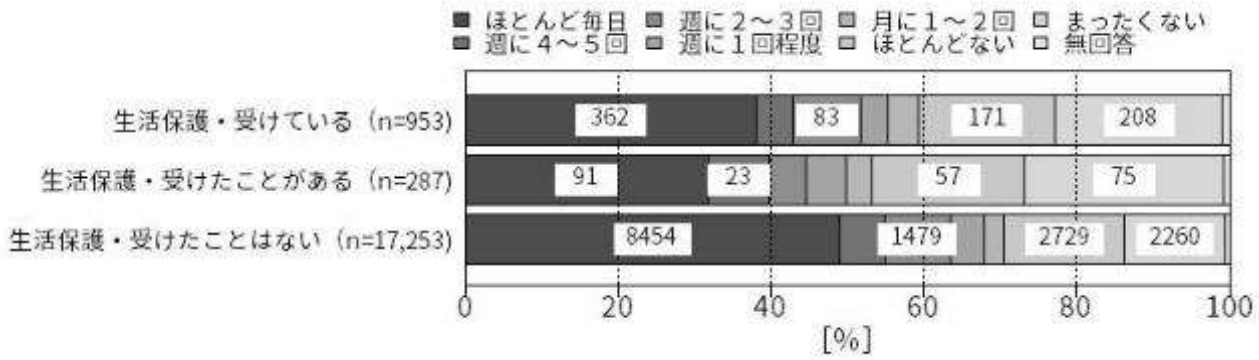
図 134. 生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護の受給状況によって、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことに大きな差は見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10①）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

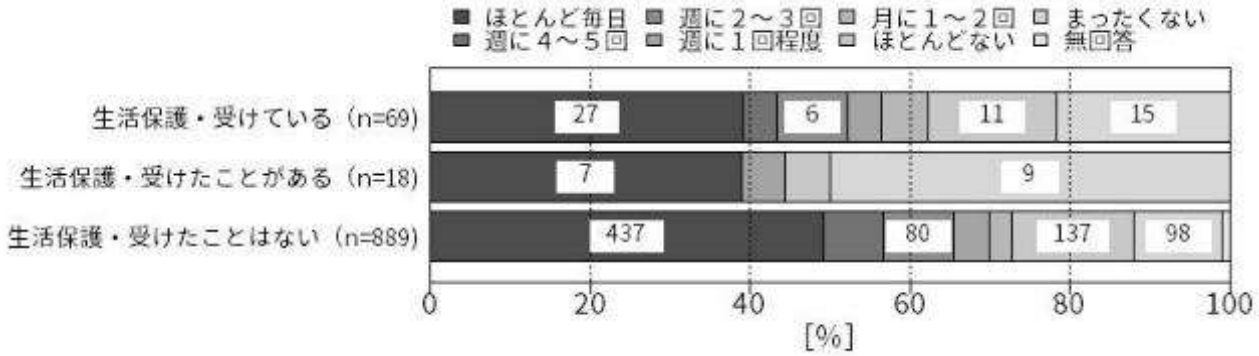


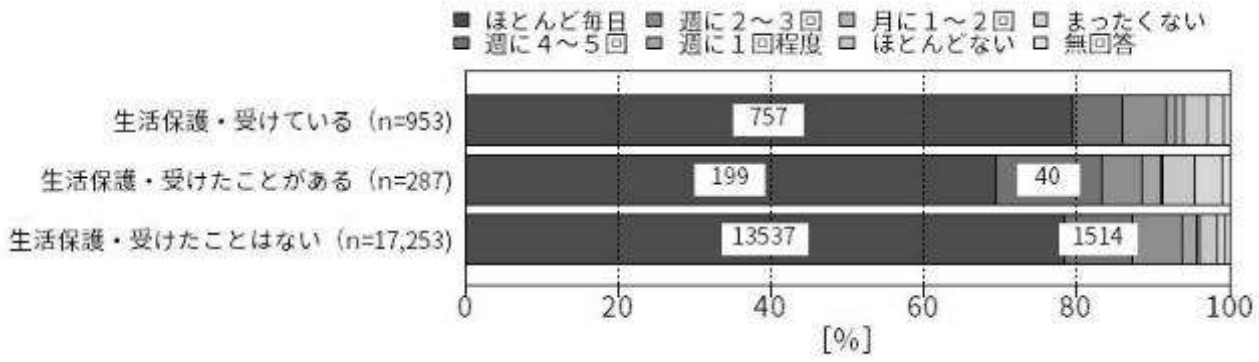
図 135. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と朝食を食べるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べることが「まったくない」と回答した子どもが 21.7%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 11.0%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10②）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

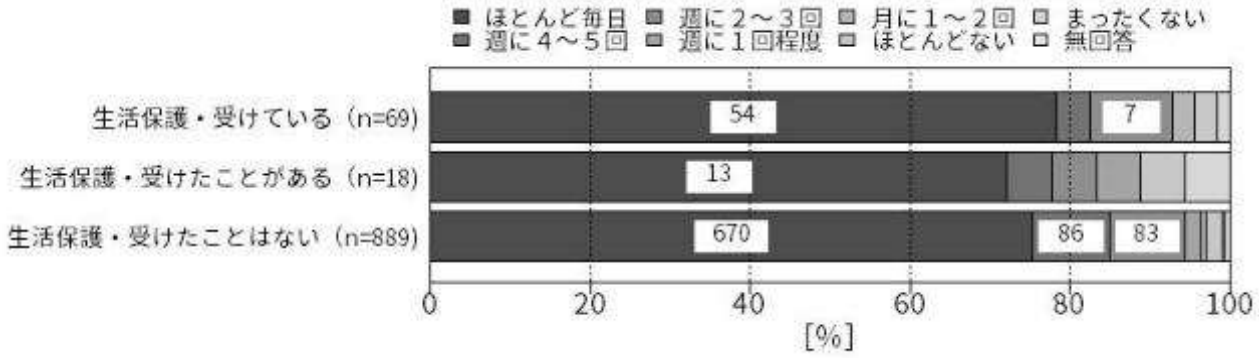
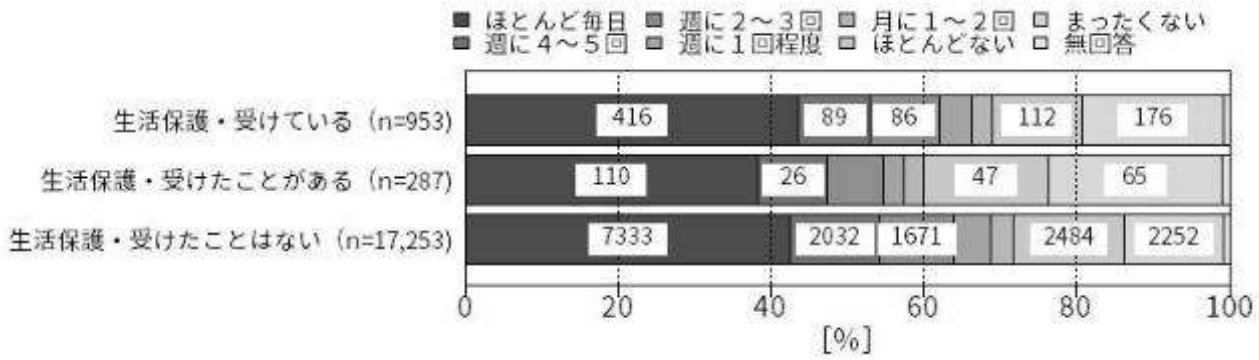


図 136. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と夕食を食べるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。
生活保護の受給状況によって大きな差は見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に朝、起こされるか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10③）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

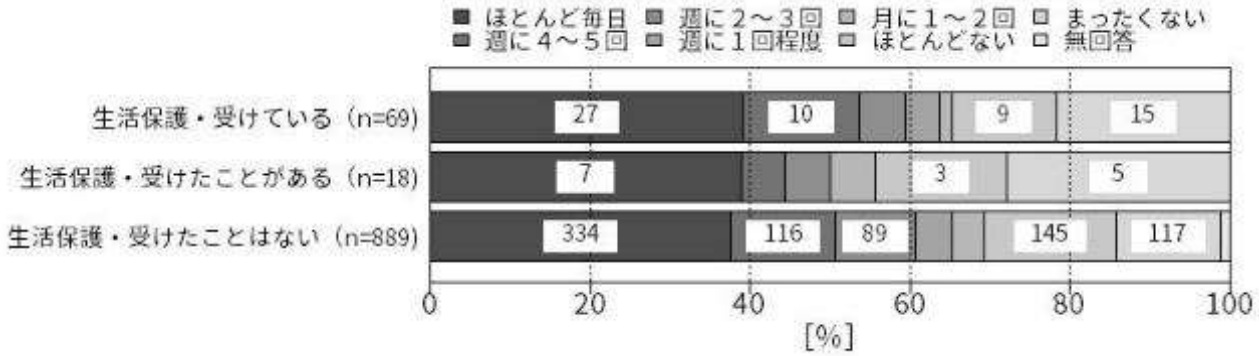


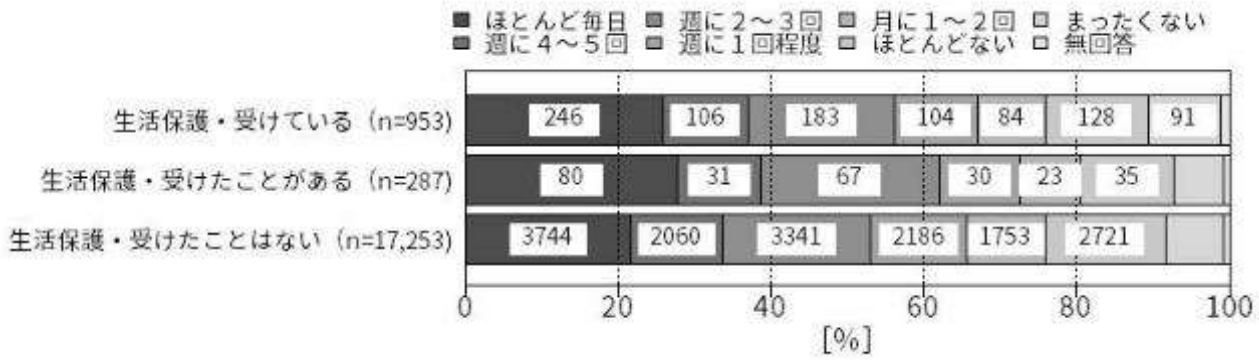
図 137. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人に朝、起こされるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護の受給状況別によって、おうちの大人の人に朝起こしてもらうかどうかに大きな違いは見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10④）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

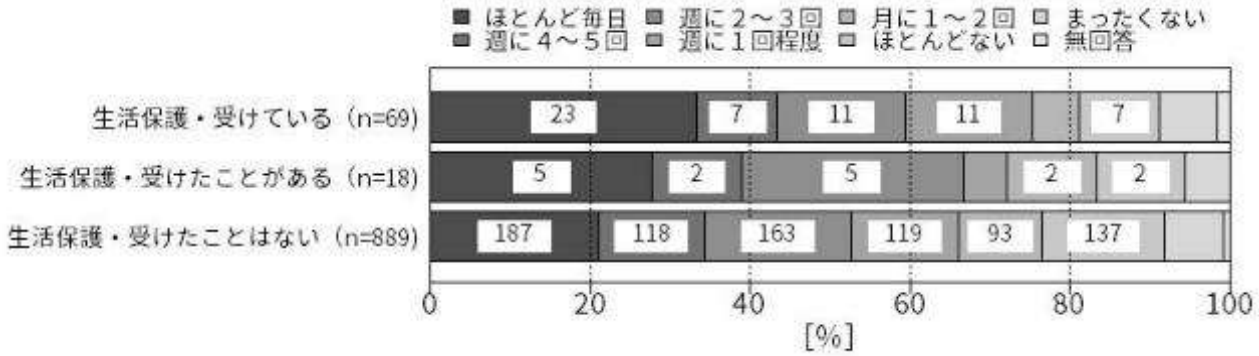


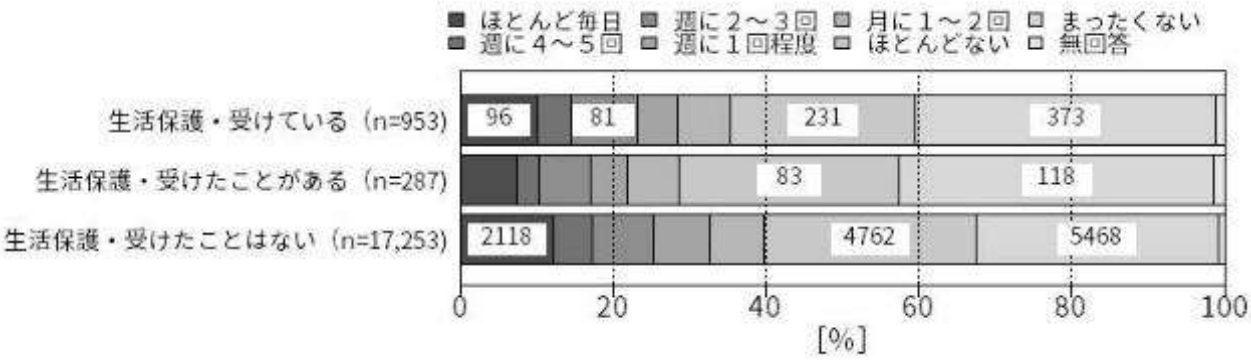
図 138. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
(家の手伝いをするか)

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの手伝いをすることが「ほとんど毎日」と回答した子どもが 33.3%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 21.0%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10⑤）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

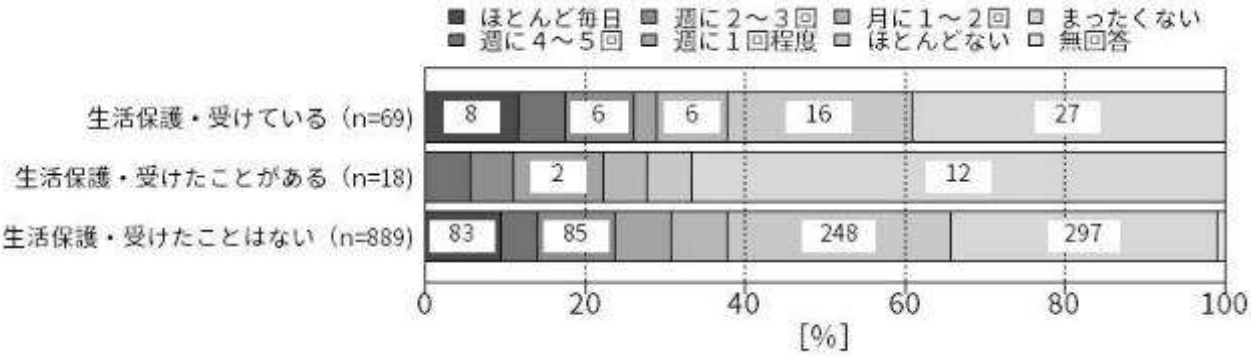
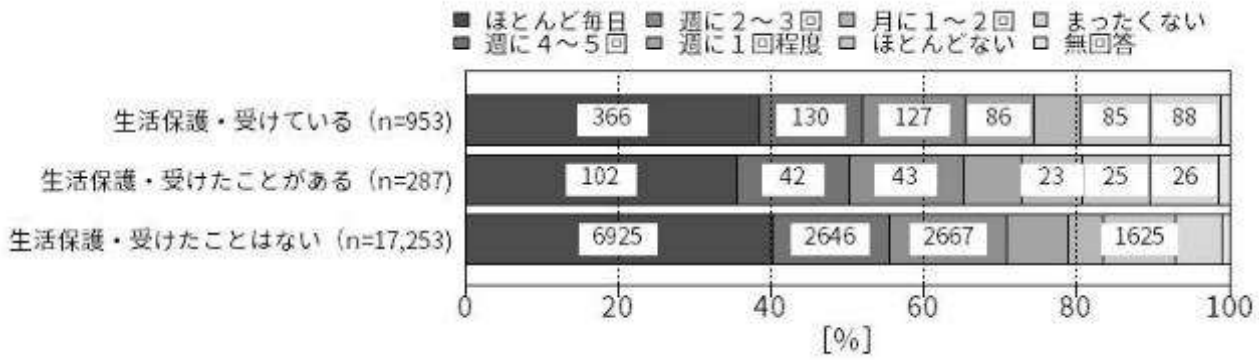


図 139. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。
生活保護の受給状況によって、大きな差は見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10⑥）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

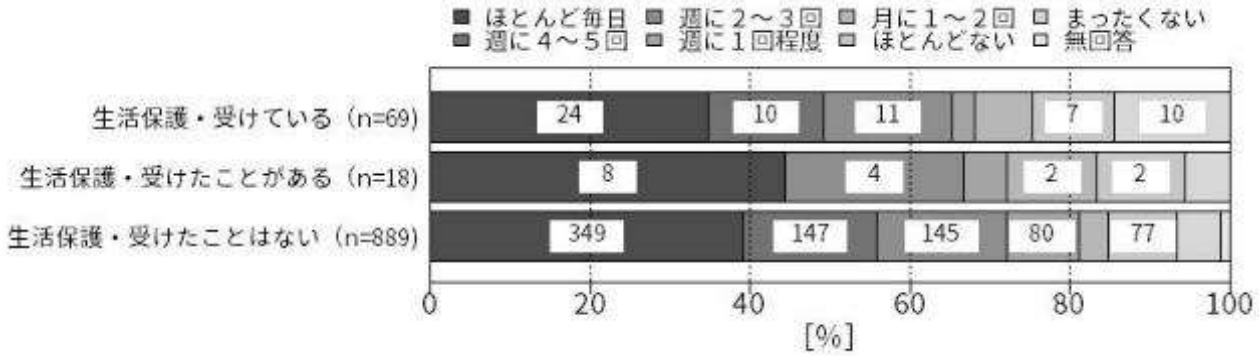


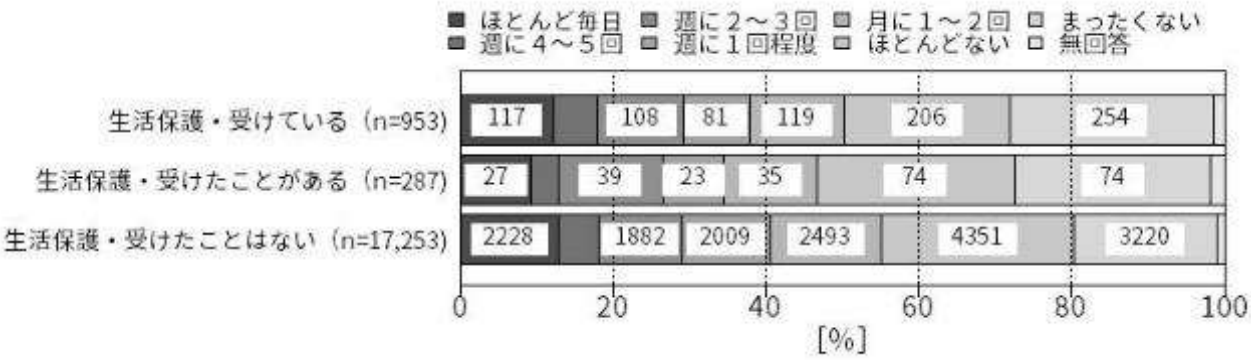
図 140. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と学校の話をするか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すことがが「まったくない」と回答した子どもが 14.5%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 5.4%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10⑦）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

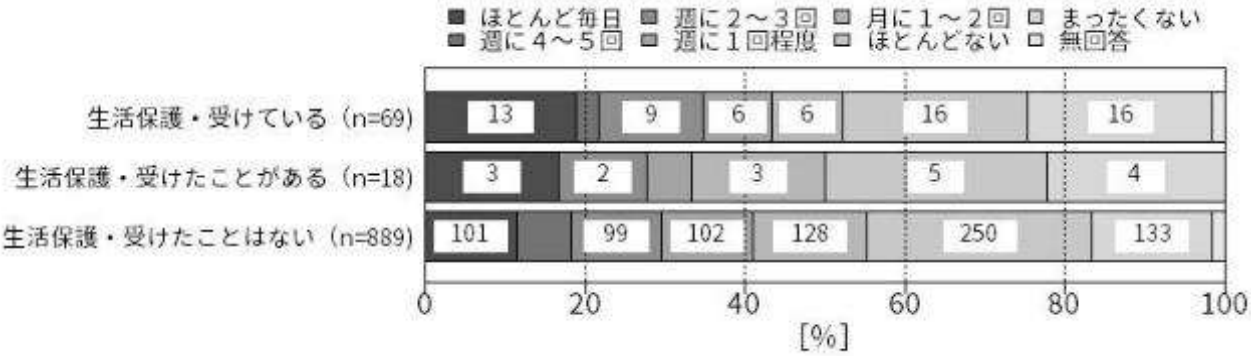


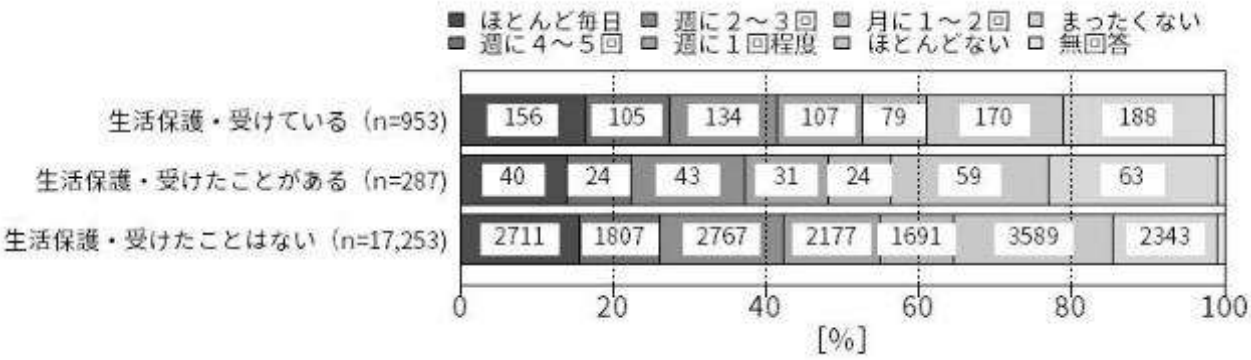
図 141. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりすることが「まったくない」と回答した子どもが 23.2%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 15.0%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10⑧）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

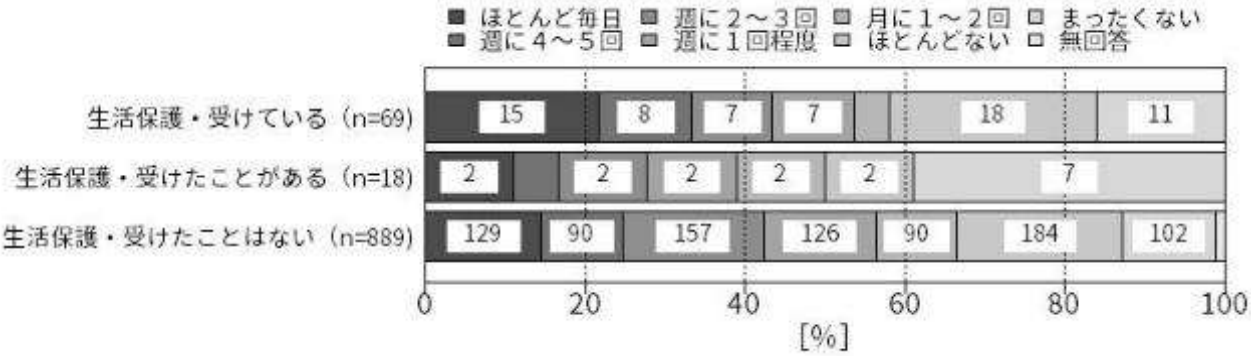


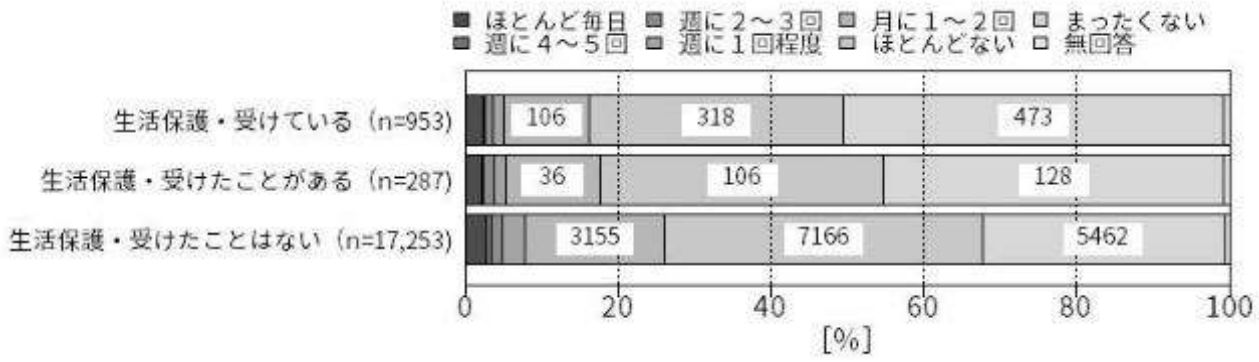
図 142. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と社会のできごとを話すか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話し合うことが「まったくない」と回答した子どもが 15.9%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 11.5%であった。生活保護を受けている世帯では、同時に「ほとんど毎日」という回答も多く見られた。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10⑨）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

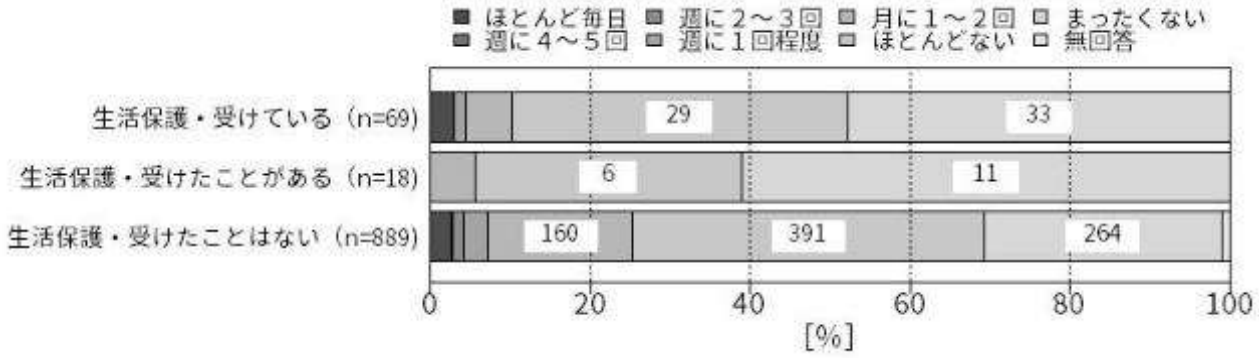


図 143. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と文化活動をするか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と文化活動をすることが「まったくない」と回答した子どもが 47.8%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 29.7%であった。